

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓 自主・自律 協同

新座市立第四中学校学校だより 令和5年6月1日 第3号
TEL 048-477-6053 URL www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon



雨が降り、川が流れ続け

校長 鮫島 弘樹

フルーツサンドでも太巻きでも、美しくカットされた断面には食欲がそそられます。美しく見せるには、よく切れる包丁と、切り方のコツが必要なのでしょう。

ある場所で、一眼レフカメラを真っ二つにカットした断面を見たことがあります。内部の精巧な作りに感心するよりも、「のり巻きならいざ知らず、どうしたらこんなに硬いものを、スパッときれいに切れるのだろうか？」という方に興味が湧いてしまいました。

細い穴から勢いよく吹き出す水によって、金属や石などどんな硬い物でも切ってしまう、ウォータージェット加工という技術があるそうです。意外な気もしますが、水でカメラを切断できるのです。

水によるはらたきについては、四中生も小学校5年生の時に、砂場などで実験してきたはずです。砂山を作ってバケツの水を流すと、流れに沿って砂山が削られていきます。多くの水を流せば、その分大きく削られていきます。

東京都の八王子市や立川市、世田谷区などを流れて東京湾に注ぐ、多摩川という河川があります。

調べてみると、かつて多摩川の流れは途中で向きを北東に変え、今の新座市あたりを流れていた時代があったそうです。その名残が、四中の脇を流れる柳瀬川なのだと知りました。はるか昔、多摩川と柳瀬川は、つながった流れだったのです。

雨が降り、川の水が勢いよく流れれば、

その分大地は少しずつ削られていきます。

とはいえ、たとえ1年分の雨水をまとめて流したところで、川岸から削られていく土砂の量はたかが知れています。

しかし、何千年、何万年と流れ続けるうちに、やがて川の周辺は大きく削られ、流れの位置はその分低くなっていきます。

四中から新開小の方へ歩いていくと、「木の芽坂通り」と呼ばれる急な坂を上っていくこととなります。逆方面では、ふれあい橋を渡り、「西武台通り」を高校の門に向かって進んでいくと、やはり急な上り坂が迫ります。どちらの坂も、高低差は約10メートルほどです。

今では遠く離れた地域を流れる多摩川の流れが、長い年月をかけて武蔵野台地を少しずつ削り、高低差のある四中周辺の地形を作ったと考えられています。

そして、多摩川が流れる八王子の市内にも「大和田」という地名があります。

川の流れが曲がっている場所に広がる平地を「わだ」と呼ぶそうです。それが、「大和田」の由来だという説があります。

一見別々の流れである柳瀬川と多摩川には、このような共通点があったのです。

今年もまた、間もなく梅雨の季節がやってきます。長く降り続く雨はやがて、川の流れの源となります。

校舎の窓から柳瀬川の川面を静かに眺めながら、四中の建つこの地がたどってきた悠久の歴史と、ダイナミックな地球の活動に、しばし思いを馳せたのでした。